

## 10 沢地グローバルガーデン

民間レベルの国際交流を実践するグローバル文化交流協会が主体となって、休耕畑をミニ公園に整備し、維持管理しています。作業には、三島市近隣に住む外国人や学生ボランティアの皆さんも参加し、作業を通じての「交流の場」となっています。



## 11 みどり野ふれあいの園

地域から、「雑草が生え、取り扱いに苦慮していた三島市の遊休地を公園化したい」との要請を受け、グラウンドワーク三島が協力して、半年間にわたる話し合いを経て、手づくりの公園計画を策定しました。その後、建設は地域住民が主体となり、企業（資機材の提供）や行政（水道施設の負担、樹木の提供）との協働で行い、愛着ある美しい公園が整備されました。



## 12 長伏小学校ビオトープ

児童が生き物と親しく触れ合える場をつくりたいとのPTAの要請を受け、コンクリートで覆われた中庭を改修して、環境教育園としてのビオトープづくりを進めました。2年近いPTAと児童の勉強会を経て、児童・保護者と町内会、地域企業の協働作業により、2001年、自然度の高い「夢トープ」が完成しました。



## 13 中郷小学校ビオトープ

国道の拡張工事による池の移転をきっかけとして、グラウンドワーク三島の助言と、環境教育園にしたいとの児童の希望により、ホタルが飛び交うビオトープづくりを進めました。保護者・児童・教職員ら200人と地元企業との協働関係により、水路やホタルの飼育小屋をつくり完成させました。



## 14 三島南高校ビオトープ

三島南高校の生徒からの支援依頼を受け、2003年、グラウンドワーク三島、サイエンス部生徒、地元関係企業等との協働により「うっそうとした湿地」をテーマとした「三南トープ」が完成し、2008年に現在の場所に移転しました。絶滅危惧種の在来のメダカも生息しています。



## 15 函南さくら保育園ビオトープ

幼年期から水辺に親しめるビオトープをつくりたいとの依頼を受け、2004年、グラウンドワーク三島、園児、保育士、保護者と地元企業等との協働により、掘り抜きの技法で井戸を掘りました。在来の植物やメダカを移し、多様な生物が生息する「遊子(ゆうし)・トープ」が完成しました。



## 環境教育

市内の鎮守の森や湧水による川や池をフィールドに、親子を対象とした様々な自然観察会や水辺の勉強会を開催しています。



鎮守の森探検隊 「バイリンガル環境かるた」

## 環境人材の育成

環境教育や実践地で活躍する市民インストラクターの育成を進めています。



グラウンドワーク三島の実践地での研修

## 空き店舗を活用した「にぎわい再生活動」

街中の空き店舗を活用し、シニアが中心となって運営・管理する「三島街中カフェ」を3店舗開店し、新たな市民サービスを提供しています。



1号店 (惣菜・地元野菜など) 2号店「ZEROGO-ME」(婦人服) 3号店「せせらぎ源兵衛」(水辺のカフェ)

## 環境コミュニティ・ビジネス

地域の人的資源(シニア・若者など)や環境資源(荒廃里山・農地など)の利活用に取り組んでいます。間伐材や放置竹林の青竹を活用した木・竹製品の製作販売、箱根西麓地域や御園地区の遊休農地を活用した「三島そば」栽培などの援農活動とおした地域農業ブランドの創出を進めています。



せせらぎシニア元気工房 満開の「三島そば」

## 企業との連携 (CSR)

大手企業との協働による植林活動や農業体験などの環境再生プロジェクト、環境教育プログラムの企画・実施、新入社員研修の受け入れをはじめ、環境バイオトイレの国内外への普及活動等を進めています。



三島そばの収穫・脱穀体験

## 広がるグラウンドワーク三島の活動 (国内・海外)



日英若者交流



日韓バイカモ交流



世界各国からの視察

## グラウンドワーク三島の参加団体

三島ゆうすい会、源兵衛川を愛する会、三島ホテルの会、桜川を愛する会、(公社)三島青年会議所、三島建設業協会、中郷用土地改良区、三島市指定上下水道工事店協同組合青年部、グローバル文化交流協会、日本大学国際関係学部国際協力部、建築文化研究会、三島まちづくり21、21世紀塾、NPO法人ふじのくにまちづくり支援隊、宮さんの川を守る会、境川・清住緑地愛護会、三島ワイズメンズクラブ、遊水匠の会、大通り商店街活性化協議会、三島商工会議所

NPO法人グラウンドワーク三島 〒411-0857 静岡県三島市芝本町7-11

TEL 055-983-0136 FAX 055-973-0022 E-mail info@gwmishima.jp

URL <http://www.gwmishima.jp/>

2014.7.4.000



静岡県三島市は、富士山からの湧水が清流となり街中を網の目のように流れる「水の都」でした。しかし、1960年代、上流地域の産業活動の活発化にともなう地下水の汲み上げにより、市内を流れる川は水量減少で淀み汚れ、ドブ川になってしまいました。このふるさとの環境悪化に危機感を持った熱心な人々と8団体は、「水の都・三島」の原風景・原体験の再生を目指し、1992年9月に「グラウンドワーク三島」をスタートさせました。

グラウンドワークは、英国発祥の市民・NPO・行政・企業のパートナーシップによる環境改善活動であり、グラウンドワーク三島が全国に先駆け導入し、「地域協働」を実現するための実効性の高い処方箋として活用してきました。

現在までに、ドブ川化した源兵衛川の水辺再生、絶滅した水中花・三島梅花藻(ミシマバイカモ)の復活、松毛川周辺の貴重な河畔林の保護活動、歴史的井戸や水神さん・お祭りの再生、ホタルの里づくり、学校ビオトープの建設、住民主体による公共施設の計画づくりと維持管理等、60カ所以上のプロジェクトを実践してきました。1999年10月には特定非営利活動法人の認証を受け、現在では、20の市民団体が参加した「ネットワーク組織」になっています。

これら水辺環境の再生から始まった活動は、環境再生から地域再生へと拡大し、毎年約1,500人・約100団体が国内外から視察に訪れています。近年では、地域の人的資源や環境資源を生かした「せせらぎシニア元気工房」の開設、遊休農地を活用したそば・小麦栽培などの「環境コミュニティ・ビジネス」の創出、エコツアーなどの観光振興、「三島街中カフェ」「ZEROGO-ME」「せせらぎ源兵衛」等の創業によるにぎわい再生、さらに、これらの先進的なノウハウを海外に普及する「国際環境交流事業」にも取り組んでいます。

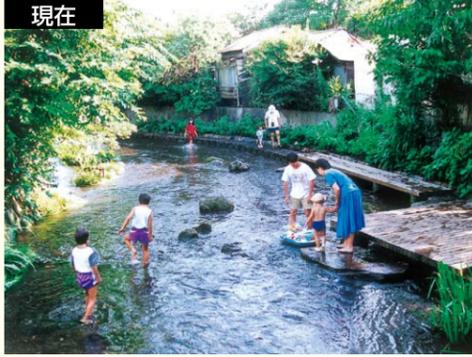
2010~2012年度には、内閣府「地域社会雇用創造事業」及び「復興支援型地域社会雇用創造事業」の一環として、これら多様な実践現場を、先進的な現場モデルとして活用し、地域ビジネスやNPOマネジメントを学ぶ「グラウンドワーク・インターンシップ」事業に着手し、約200人の社会起業家の輩出と、約3,000人の社会的企業を担う人材育成を行っています。さらに東日本震災以降、子どもとご家族の心のケアを目的とした「子どもを元気に富士山プロジェクト」を立ち上げ、継続的な支援活動も展開しています。

今後とも「右手にスコップ・左手に缶ビール」「走りながら考える」を合言葉に、「ミッション・アクション・パッション」を活動の心根に秘め、地域から日本の元気再生の規範になれるよう戦略的で地道な市民活動に挑戦していきます。

復活したミシマバイカモ

げんべえがわ  
**1 源兵衛川再生**

「水の都・三島」の清流のシンボルである源兵衛川は、1960年代から湧水の減少が進み、濁水期には家庭雑排水の垂れ流しやゴミの放置により水辺環境が悪化しました。心を痛めた多くの市民が立ち上がり、市民・NPO・行政・企業がパートナーシップを組み、身近な環境改善を進める新たな市民運動であるグラウンドワーク活動に取り組みました。



現在

地域住民の声をもとに、グラウンドワーク三島が関係者相互の調整役となり、親水施設が整備され、お互い同士が協力し合い、源兵衛川の水辺環境の再生に努力しました。事業終了後も、地域住民の手によって生態系を守り育てる地道な活動が続けられ、今ではゲンジボタルや絶滅危惧種のホトケドジョウが生息する自然度の高い川に変貌しつつあります。

1980年代



**2 宮さんの川・ほたるの里**

湧水が枯渇し湿地状態になっていた宮さんの川上流部に水を流し、人工的なせせらぎを作り、ホタルが育成できる水辺環境を作りだしました。三島市の「街中がせせらぎ事業」との協働により、グラウンドワーク三島が三島ホタルの会等の専門的なアドバイスを受け、地域住民とともに建設しました。



みしまばいかも  
**3 三島梅花藻の里**

湧水の減少と水質悪化により市内の川から姿を消した水中花・ミシマバイカモを復元、育成するために、1995年に(財)佐野美術館所有の湧水池を借り、増殖基地・観光スポットとして環境整備を行いました。現在では増殖した清流のパロメーターであるミシマバイカモを各河川に移植し、原風景の再生を進めています。



さかいがわ きよすみりょくち  
**4 境川・清住緑地**

静岡県沼津土木事務所からの要請を受け、グラウンドワーク三島が自然観察会や住民参加のワークショップを開催し、地域住民の意見やアイデアを収集した地域固有の生態空間を再生しました。今では地域住民が主体となった境川・清住緑地愛護会が、行政からの維持管理を委託されるまでになり、豊かな生態系が回復しています。



**NPO法人グラウンドワーク三島**

JR三島駅南口より 徒歩 約7分  
伊豆箱根鉄道三島広小路駅より 徒歩 約7分

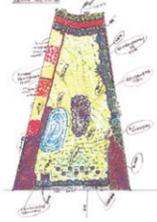


逆さ富士と中郷温水池  
市内の各所から富士山が見えます



よろいざか  
**5 鏡坂ミニ公園**

県道沿いで放置され、ゴミ捨て場化していた遊休地を、グラウンドワーク三島が調整役となり、町内会や子ども会・老人会とが一体化し、行政と地元企業との協力関係により、地域総参加で作りあげたミニ公園です。現在、地元住民が愛着をもって維持管理を担っています。



**6 鏡池ミニ公園**

かつては富士山からの雪解け水が勢よく湧き出る水源地であり、三嶋大社に参拝する人々が身を清める場所として利用されていたと言われていました。湧水が涸れ、忘れられていた歴史的遺産を再整備しようと、町内会や地元企業との協働によりミニ公園に整備しました。



こしきりぶどうそん  
**7 腰切不動尊**

江戸時代に近くの御殿川に流れ着いた、腰から上だけが彫られた石仏をまつたと言伝えられています。近くには「御殿地」ゆかりの石畳（通称「こうらぶせ」）や古井戸が残っています。井戸を再生し、途絶えていたお祭りを町内会や子ども会、大学生とともに40年ぶりに復活させました。



**8 雷井戸**

雷井戸は、1年を通して湧水が自噴している市内最大の井戸です。かつては田町簡易水道の水源地でしたが、その役目を終え放置されていたものを、グラウンドワーク三島が泉トラスト運動により買収し、地域住民や企業との協働により整備を進め、維持管理を行っています。



まつげがわ  
**9 松毛川** (沼津市側の呼称は灰塚川)

狩野川の旧河川敷で、生態系豊かな河畔林が今も残る「ふるさとの川と森」ですが、開発による水質悪化や外来種の侵入、河畔林の倒木などの環境被害が進んでいます。そこで、地域住民と共に「千年の森」づくりに向けた自然観察会や植林活動等を実施し、具体的な自然再生の計画づくりを進めています。

